

幼児の学びと保育の記録・省察を支援する タブレット用アプリ「ASCA」を活用した保育実践

○松山由美子(四天王寺大学短期大学部) 中村恵(畿央大学) 深見俊崇(島根大学)
堀田博史(園田学園女子大学) 松河秀哉(東北大学)
森田健宏(関西外国語大学) 佐藤朝美(愛知淑徳大学)

1. 背景

現代の日本の家庭生活、小学校以上の教育においては、スマートフォンやタブレットなどさまざまな情報利用が見られる。一方で、保育における ICT 利用については、十分に普及しているとはいえない。しかし、2015 年時点での保育現場におけるメディア保有率及び活用率の調査結果(小平,2016)から、パソコンもデジタルカメラも保育現場における保有率はともに 95% 前後であるが、その保育での活用については、パソコン利用が 11% に留まっていることに対し、デジタルカメラの活用は 69% であることが明らかになった。このことから、タブレットについては、カメラ機能を中心に保育者がタブレットを保育で活用する価値や活用イメージを理解することで、保育現場においてデジタルカメラと同様に活用が普及する可能性があると考えられる。実際、アプリは使わないが、タブレット端末で記録した映像や写真を、保育者が保育の記録の 1 つとして活用したり、保護者に公開することを通して保育実践の説明に活用したりする園もでてきている。

筆者らは、タブレットがカメラの代用にとどまらず、幼児期のあそびを通じた学びを支援するツールとなる可能性があると考え、幼児期の学びにふさわしく、かつ保育者も安心して活用できるメディア教材の開発が重要であると考えている。そこで、2014 年度から幼稚園等の保育現場における幼児の育ちに寄与するタブレット用アプリケーションの開発に着手し、2016 年度から保育現場で実証実験を始めている。

2. 開発したアプリ「ASCA」の概要

本研究では、実際にアプリを開発し、保育実践を行うことで、日本の保育現場におけるメディア活用、特にタブレット端末の活用の方向性を確認することを目的としている。そこで、子どもがあそびの中で安心して使えるセキュリティを備えたカメラ機能と、保育者がそれらの写真を時系列だけではなくタグを付与することで保育の記録として振り返ることが可能なアルバム機能を備えたアプリ「ASCA (Archives Sharing and Creating Anytime for preschool)」を開発した。

このアプリの開発にあたっては、日本の保育現場に適したものであることが重要であると考え、1) 子どもどうし、また子どもと保育者の協同を促すようなアプリ、2) 特定のテーマや 1 つの領域に特化せず、子どもの興味や関心に応じることができるアプリや、様々な活動が展開できるオーサリングツールとして使えるようなアプリ、の 2 点を踏まえている。

3. 保育現場での活用状況と課題

2016 年 5 月 31 日から 7 月 20 日までの、大阪府 T 市立 N 幼稚園の年長児クラス(9 名)での ASCA 及びタブレット活用状況と課題を報告する。

N 幼稚園では、担任教諭等がデジタルカメラで子どもの活動を撮影し、保護者に掲示で知らせるなどの活用は従来から行っていたが、子どものタブレット活用は今回が初めてである。

最初に遊戯室にクラス全員が集合し、タブレット及び ASCA の使い方について説明を行った。子どもたちは問題なく活用しはじめた。最初は友達どうしお互いを撮りあっていたが、30 分後には遊戯室を出て職員室の裏にある川などに行き、発見した蛙や花の種など興味のあるものを撮影した。

その後は、担任教諭や園長が「今の撮影しておく？」と個別に声をかけたり、担任教諭が写真発表会を計画したことで、子どもの中に「タブレットは大事な写真を撮るもの」という意識が育ち、各自が伝えたいと思ったこと、発見したことを写真に撮るようになった。この期間に ASCA で撮影した写真は 146 枚であった。

しかし、アプリの不具合だけではなく、セキュリティ上幼稚園内でしか使えないことなどから、子どもたちは途中から ASCA だけではなく普通のカメラ機能も使い始めていた。なお、通常のカメラ機能で撮影した写真は 169 枚(連写は 1 枚と計算)であった。

ASCA を含めタブレットで撮影した写真を教諭が掲示したり、モニターで写真を大きく投影しながら発表する発表会を行ったことで、子どもの興味や関心が広がったり深まったりする姿が見られた。夏休みに自分より深くセミについて調べた子どももいた。さらに、子どもどうしが「がんばっていたから」「笑顔で嬉しかったから」など、友達のように写真を撮影して発表する姿から、子どもどうしの友達関係の深まりも見ることができた。

アプリの課題としては、特に自然の中での撮影について、子どもの興味や関心から「(撮影より)まず自分の手で触りたい」という気持ちが先行することから活動に集中してしまいタブレットを使うことを忘れることや、タブレットを持っていても ASCA はログイン等の操作を要するため、動く虫など「今この瞬間」の撮影に対応できないこと、さらに、保育者の機能であるタグの設定や整理方法に改善の必要性があることが担任教諭へのインタビューから明らかになった。

本研究は JSPS 科研費 26350351 の助成を受けたものです。